

## 経営情報学部における学部改革の記録

疋田光伯

### I. はじめに

経営情報学部は経営情報学科とメディア情報学科の2つの学科で構成されている。経営情報学科は2010年度入試でそれまでの定員充足状態から定員充足率70%台に下落し、大きく定員割れを起こすことになった。また、メディア情報学科は数年前から定員充足率50%前後で推移しており、経営情報学部全体としても60%程度となり、大変厳しい状況となった。この状況を打開するために、2011年度から経営情報学部独自で学部改革を行うことになった。この学部改革は、2011年度に疋田学部長から始まり、2015年度に本田学部長に引き継がれ、2021年度からは長沼学部長が推進し、現在に至っている。

この学部改革と同時期に大学改革2011（5年間）がスタートし、経営情報学部の先生方は学部改革と大学改革の両方を推進しなければならない状況となり、大変なご苦労をおかけすることになった。学部改革の理念を「面倒見の良いにこだわった教育支援と地域連携にこだわった人材育成を推進することによって、学生と保護者の夢を実現する」とし、すぐに目に見える成果は望めないが、10年を目途にやり続けることが成果に繋がるという思いで、改革に取り組んできた。本資料は、経営情報学部で取り組んできた学部改革の足跡を記録したものである。

### II. 学部の強みと改革の理念

学部改革の理念については、私の次のような経験にもとづいて、学部運営の執行部（学部長及び学科主任）で創られた。私は1992年から4年間、本学経営情報学部の創設スタッフとして勤務した後、1996年にT大学経営学部の創設スタッフとして転出した。T大学経営学部の創設から数年間は定員を大幅に上回る入学者が確保できていたが、徐々に減少し、ついには定員充足率60%にまで下落した。この状況を打開するために学部改革を実施することになり、

その改革を任された。最初に取り組んだのが、他大学の調査である。その頃、四国大学は好調な募集状況が続いており、その要因調査を受験関連企業数に依頼した。しばらくして、調査結果が出そろった。調査を依頼した受験関連企業のほとんどが、四国大学は他大学に比べて「面倒見の良い大学」という評価が地元に着していることを一番の要因に挙げたのである。それは想定していた通りの結果であった。私が四国大学に勤務していた4年間、教員と職員がそれぞれの仕事の中で「面倒見の良い」を具体的に実践している様子を目の当たりにしていたので、合点の行く結果であった。四国大学の「面倒見の良い」という強み（地域からの評価）は、四国大学の長い歴史の中で培われた風土であり、伝統であり、そしてブランドでもある。T大学経営学部での学部改革はこの調査結果をもとにして進められ、一定の成果も得られ、現在に至っている。

上述のような経験をもとにして、「面倒見の良い」という四国大学の強みにさらに磨きをかけることにより、経営情報学部の強みを作ることにした。すなわち、他大学では行っていないことでかつ学生のためになる「面倒見の良いにこだわった教育支援」を実施し、それを学部の強みとすることになった。さらに、もう一つの強みとして、「地域連携にこだわった人材育成」とすることとした。具体的には、大学だけの閉じた形で人材育成をするのではなく、将来学生が働く現場であるところの地域産業界と連携して、大学と地域が共に汗をかきながら地域の発展に貢献できる人材を育成しようというものである。そして、学部改革の目指すものを「学生と保護者の夢を実現する」とこととした。対象を学生だけではなく学生と保護者としたのは、授業料は保護者が大変なご苦労をして納入してくださっているので、保護者の方の学生への「思い」もここに入れるべきと判断した。ここで、夢とは具体的に、目指す企業に就職

して仕事を通じて社会に貢献できる人材になることである。上述の2つの強みによって、学生と保護者の夢を実現することを改革の理念とし、次のように掲げた。

(学部改革の理念)

「面倒見の良いにこだわった教育支援と地域連携にこだわった人材育成を推進することによって、学生と保護者の夢を実現する」

理念の中に「こだわった」という文言を入れたのは、「面倒見の良い教育支援」と「地域連携による人材育成」を追求し続けて、他大学にはない価値のあるものをつくり、実践し続けるという意味である。

### Ⅲ. 理念の実現に向けた具体的な取り組み

経営情報学部の入学者はその約20%が女子学生であり、約80%が男子学生である。入学生のおほとんどが将来の仕事の目標を持っておらず、目標がないまま何となく学生生活を送り、就職活動が始まる時期(3年後期)になって慌てだし、準備不足のまま就職活動を始める状況であった。そこで、経営情報学部では四国大学での4年間を学生が夢を叶えられるように、1年生から4年生の各学年でのゼミナール(フレッシューズゼミ、演習Ⅰ、演習Ⅱ、卒業研究)を通じて、専門の教員が面倒見の良い教育支援をすることになった。従来は1年生のゼミナールは実施されていなかったが、フレッシューズゼミⅠ・Ⅱを新設し、入学から卒業までの4年間、学部・学科の

全教員で学生の夢実現を支援する体制とした。具体的には図1に示すような学部改革プロジェクト(夢実現ロードマッププロジェクト)を実施することになった。ここで問題になったのが、前述の2つの学部の強みをどう作るかである。すなわち、他大学で行っていないことでかつ学生のためになる「面倒見の良いにこだわった教育支援」と「地域連携にこだわった人材育成」とは何か?である。なかなか難しい問題であったが、当時の主任会(正田学部長、長沼学科主任及び鈴木学科主任で開催する週1回の会)で検討を重ねた結果、次のような具体案を実施することとした。

#### 1 面倒見の良いにこだわった教育支援について

図1に示すように、面倒見の良いにこだわった教育支援の中心として、「夢実現ロードマップ」という、「夢を実現するための計画書」を配置した。この計画書は入学当初のフレッシューズゼミⅠの中で、ゼミ教員の支援のもとに学生自身が作成し、その計画書に基づいて、夢の実現を目指して、学生生活を送るというものである。夢実現ロードマップは、資料1～3にあるように、自己分析用(資料1)、毎年用(資料2)および振り返り用(資料3)の3枚で構成される。自己分析用はこれまでに頑張ったことや自分の長所等を確認し、それを基礎として4年後すなわち卒業時に実現を目指す夢(仕事の具体的な目標)を設定する。この段階では仕事の目標を設定することが重要であり、この目標は自己成長に従って変化することを想定している。また、毎年用はこれからの1年間で何を修得するのかを書く。具体的には、授業、課外活動、ボランティア等および大学行事への参加の4つの項目についての修得計画(修得目標と修得目標を達成するために心掛けること)を書く。学生はこの修得計画に沿って学生生活を送る。ゼミ教員は二者面談を適宜実施し、夢実現ロードマップを学生と教員の真ん中に置いて、学生が教員に進捗状況を説明し、現在位置の確認を行いながら、計画が達成できるように次の行動に繋げる。すなわち、学生が主体となって教員支援の下でPDCAを回してい

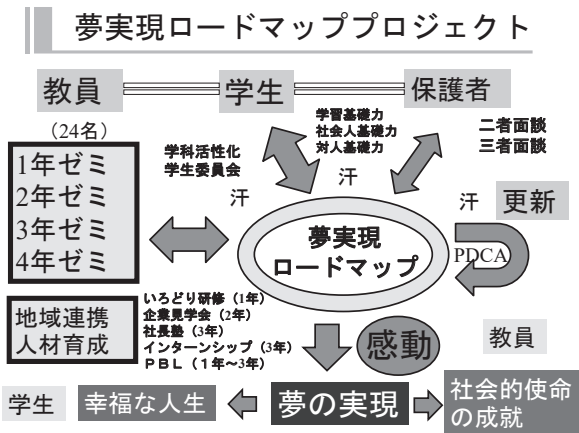


図1: 学部改革プロジェクト(夢実現ロードマッププロジェクト)

く。学年の最後で1年間の活動を振り返り、夢実現ロードマップの振り返り用に記入し、計画通りに実行できたこととできなかったことに分け、次年度の計画書（毎年用）に反映させる。各学年の年度当初には、学生、保護者および教員で三者面談を実施する。夢実現ロードマップを三者の真ん中に置いて、1年間の取り組みの振り返りとこれから実施する1年間の修得計画を学生自身が説明し、それを三者で

共有する。三者面談は、学生が夢実現のためにこれからの1年間で頑張るための動機付けと我々が行った教育支援に関する保護者への説明責任を果たすという役割がある。夢実現ロードマップを中心として、二者面談と三者面談を繰り返すことにより、学生の夢実現を支援するという取り組みは、経営情報学部特有の強みともいえる。すなわち、他大学で行っていないことでかつ学生のためになる「面倒見の良い

**夢実現ロードマップ(自己分析用)**

記入年月日 2022年度版

学号 (フリガナ) 氏名	所属学科	コース選択(予定)	学年(希望)	1年( )
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>【現在の自分】</p> <p>＜自己の強み＞ ○得意な科目: ○得意な科目: ○得意な科目: ○得意な科目: ○得意な科目:</p> <p>＜現在の課題＞ ○課題: ○課題: ○課題: ○課題: ○課題:</p> </div> <div style="width: 48%;"> <p>【将来の自分(なりたい自分)】</p> <p>＜将来の自分(なりたい自分)のイメージ＞ 「なりたい自分(なりたい自分)のイメージ」を具体的に描いてみる。 「なりたい自分(なりたい自分)のイメージ」を具体的に描いてみる。 「なりたい自分(なりたい自分)のイメージ」を具体的に描いてみる。</p> <p>＜将来の自分(なりたい自分)のイメージ＞ 「なりたい自分(なりたい自分)のイメージ」を具体的に描いてみる。 「なりたい自分(なりたい自分)のイメージ」を具体的に描いてみる。 「なりたい自分(なりたい自分)のイメージ」を具体的に描いてみる。</p> </div> </div>				

資料1：夢実現ロードマップ（自己分析用）

**夢実現ロードマップ(毎年用)**

記入年月日 2022年度版

学号 (フリガナ) 氏名	所属学科	コース選択(予定)	学年(希望)	1年( )										
<p>＜今年度の振り返り(自分の振り返り)＞</p>														
No	課題に対する取組み	課題に対する取組み(必須スキル)の具体的な習得目標	習得目標を達成するための課題分析											
(1)	学科指定の授業科目													
(2)	課外活動など													
(3)	ボランティアなど(アルバイトも含む)													
(4)	大学行事への参加													
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">評価日</td> <td style="width: 20%;">前期履修評価</td> <td style="width: 20%;">前期履修評価</td> <td style="width: 20%;">後期履修評価</td> <td style="width: 20%;">後期履修評価</td> </tr> <tr> <td>評価者</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					評価日	前期履修評価	前期履修評価	後期履修評価	後期履修評価	評価者				
評価日	前期履修評価	前期履修評価	後期履修評価	後期履修評価										
評価者														

資料2：夢実現ロードマップ（毎年用）

**夢実現ロードマップ(振り返り用)**

記入年月日 2022年度版

学号 (フリガナ) 氏名	所属学科	コース選択(予定)	学年(希望)	1年( )
<p>＜今年度の振り返り(目標の達成、到達、反省、改善など)＞</p>				
No	前期未 記入	後期未 記入		
	<p>【学科指定の授業科目】</p>			
(1)				
No	前期未 記入	後期未 記入		
	<p>【課外活動など】</p>			
(2)				
No	前期未 記入	後期未 記入		
	<p>【ボランティアなど(バイト等も含む)】</p>			
(3)				
No	前期未 記入	後期未 記入		
	<p>【大学行事への参加】</p>			
(4)				
<p>【目標以外】</p>				
<p>【教員が記載】</p>				

資料3：夢実現ロードマップ（振り返り用）

にこだわった教育支援」である。入学当初に行う1年生の初めての三者面談では、学生と保護者のほとんどが、不安そうな表情で面談室に入って来られる。しかし、面談が終わって帰って行かれるときには、晴々とした嬉しそうな表情に変わっている。ある保護者から言われた「四国大学は面倒見の良い大学だと聞いていましたが、今日ここに来てその理由が分かりました。」という言葉が心に残っている。夢実現ロードマップによる三者面談は学生・保護者・教員を信頼関係で結ぶ役割もある。

## 2 地域連携にこだわった人材育成について

図1に示すように、地域連携にこだわった人材育成の仕組みとして、1年から3年までの各学年で経営情報学部特有の人材育成に関するイベントを企画し実施している。まず、いろいろ研修(写真1~3)であるが、「葉っぱビジネス」で全国から注目を集めていた株式会社いろいろ代表取締役横石知二氏に協力を仰ぎ、2泊3日の現場研修を行うことになった。100名を超える学生を受け入れるにはリスクが伴うため、横石氏には難しい判断となったが、我々が実施する人材育成への取り組みに共感していただき、実施できる運びとなった。「葉っぱビジネス」の現場から、働くことへの意欲や人間成長のきっかけをいただくことを目的として実施している。いろいろと連携して学部単位で研修を行うのは四国大学経営情報学部のみである。また、2年で実施する企

業見学会(写真4)は徳島県中小企業家同友会に協力していただき、夏休みに実施している。具体的には、10社程度の見学先をご用意いただき、学生はグループに分かれて、企業を訪問し仕事の現場を自分の目で確認し、疑問点を質問するなどして仕事への理解を深める機会とした。また、社長塾(写真5,6)

2022年度 四国大学 第12期社長塾(経営者論)  
テーマ: 何のために学ぶのか? 何のために働くのか? 何のために生きるのか?

前期 毎週月曜日 午後2時40分~4時10分(4時開校) R201講義室(共通講義棟2階)  
概ね40分、グループ討議30分、討議発表10分、まとめ10分 担当調整員: 中岸 真史氏

日程(予定)	講 師	QRコード	テーマ
第1講 4月11日(月)	四国大学 経営情報学部 疋田 光伯 氏・長瀬 次郎 氏 増門ガス(株) 代表取締役専務 中岸 真史 氏		オリエンテーション 社長塾の本質について
第2講 4月18日(月)	(株)サンフォード 代表取締役 山城 真一 氏 (マクドナルドFC)		社長塾での学びと グループ討論のやり方について
<b>第1クールテーマ: 理念の重要性</b> リーダー: 奥野真氏			
第3講 4月25日(月)	(株)高瀬ふんどん店 代表取締役 高瀬 良良 氏 (寝袋・寝具・インテリア用品小物販売)		理念とは何か
第4講 5月2日(月)	(株)橋幸ワザ漁行 取締役部長 南 智子 氏 (伊勢志摩)		理念を言葉にすることで 得られる本音の力
第5講 5月9日(月)	アイリス、フーズ徳島(株) 代表取締役 森井 貴弘 氏 (青ネギの生産・販売)		理念に僕は救われた!
第6講 5月16日(月)	第2講~第4講講師による パネルディスカッション ファンリテーター (株)同友会事務局 横石 知二 氏		理念の重要性
<b>第2クールテーマ: 働くことで得られる喜び</b> リーダー: 西岡真氏			
第7講 5月23日(月)	(株)日産サティオ徳島 代表取締役社長 藤村 泰之 氏 (日産正規ディーラー)		
第8講 5月30日(月)	野田ハニー食品工業(株) 代表取締役 野田 和雄 氏 (清涼飲料水・健康食品製造販売・練乳製品の販売)		
第9講 6月6日(月)	西部木工 代表 西岡 真 氏 (器具製造)		挑戦と成長について
第10講 6月13日(月)	第7講~第9講講師による パネルディスカッション ファンリテーター (株)Global Activation 高岡彰弘 氏		働くことで得られる喜び
<b>第3クールテーマ: 学びの活かし方</b> リーダー: 中岸真史氏			
第11講 6月20日(月)	森田緑化(株) 代表取締役社長 森田 真輔 氏 (造園業・土木業)		学生生活の学びを 社会生活に生かすコツ
第12講 6月27日(月)	(株)南本建設 代表取締役 岡本 克雄 氏 (総合建設業(一般建築、型枠専門業))		自分の価値観を強みに変える
第13講 7月4日(月)	権田産産(株) 代表取締役社長 権田 勝一 氏 (建材・住宅設備機器 塗料・塗装設備)		成功への近道は、気持ち、学びを 素直に実践していくこと
第14講 7月11日(月)	第10講~第12講講師による パネルディスカッション ファンリテーター 増門ガス(株) 中岸 真史 氏		学びの活かし方
第15講 7月25日(月)	疋田先生・長瀬先生・山城会長による パネルディスカッション 講演賞、奨励賞表彰 まとめ		

資料4: 社長塾



写真1: いろいろ研修1



写真2: いろいろ研修2



写真3: いろいろ研修3



写真4: 企業見学会



写真5: 社長塾1



写真6: 社長塾2



はこちらも徳島県中小企業家同友会にご協力を仰ぎ、経営者論という専門科目を新設して実施している。具体的には資料4のように、15回の講義に各分野業界で活躍されている経営者の方に業界や企業現場に関するお話をいただいた後で、設定されたテーマでグループ討論を行い、その結果を代表者が発表して、学びを全員で共有することとした。社長塾は2022年度で11年目となる取り組みであるが、授業終了後に同友会と本学のスタッフで反省会を開き、その結果を次年度の授業に組み込んで、毎年進化を続けている。このように、学部単位で経営者団体等と連携を密にして人材育成に取り組んでいることが、他大学との差別化に繋がっている。

### 3 その他の取り組み

その他の取り組みとして、学科活性化学生委員会がある。この委員会は両学科に設置され、通称「学生スタッフ」と呼ばれており、学生自身が自分の居場所（学科）を良くするためのイベント等を企画し実施する組織となっている。具体的には、オープンキャンパスにおいて、将来の後輩になるであろう高校生への学生視点での学科説明や懇談会を実施している。また、学生自身が経営者団体に協力を要請して、企業経営者と学生が交流し学び合う会を毎年学内で開催している。さらに卒業式で先輩を祝福するためにプレゼントを作成し、お祝いのメッセージを添えて卒業生一人ひとりに渡している。このように、学生自身が学科の活性化に貢献するとともに自己成長をする場を学科内に創っている。誠に頼もしい限りである。これらの貢献活動に対して、卒業していく学生スタッフを卒業式で表彰している。最後に、経営情報学部ではアルバイトを人間成長する場とし

て推奨している。アルバイト先はまさに経営の現場であり、経営情報学部の学生が大学で学んでいる経営関連分野の理論や手法がどのように活かされているのかを確認し、腑に落とす機会と捉えている。

### IV. おわりに

経営情報学部は2011年度に定員充足率が60%程度にまで落ち込み、その年から学部改革が始まった。学部改革の理念を「面倒見の良いにこだわった教育支援と地域連携にこだわった人材育成を推進することによって、学生と保護者の夢を実現する」とし、その実現に向けて活動を始めて早や12年が過ぎようとしている。「面倒見の良い」という教育の本質を具現化することにより、他大学との差別化を目指した。短期間での結果は望めないが、忍耐強くやり続けることが必ず成果に繋がることを信じて、ジグザグの道を進んできた。学部改革と同時並行で大学改革も推進してきたため、学部の先生方には大変なご苦勞を強いることになってしまったことが、心残りである。経営情報学部で10年を超えて実施してきた学部改革（夢実現ロードマッププロジェクト）は、現在長沼学部長のリーダーシップのもとで、新しい風が吹き込まれようとしている。正田・本田・長沼の3代の学部長にわたって、よくここまで続けられたものである。学部の先生方の献身的なご協力に感謝を申し上げたい。「継続は力なり」のごとく、このプロジェクトをやり続けることで経営情報学部の伝統（ブランド）を創り上げていただければと思う。「面倒見の良い教育支援と言え、四国大学経営情報学部」と言われる日まで。